

参 考 資 料 1

安威川流域における洪水の歴史

茨木最大の河川である安威川は増水による決壊もまれではなく、兩岸の堤防の嵩上げによる利害で常に対立して紛争が繰り返えされてきました。

その一例が元文年間（18世紀中頃）に二度まで決壊した西河原付近の堤防をめぐる争論であります。（図-3 近世末の用・悪水路参照）

この右岸が決壊すると茨木から水尾・真砂・内瀬・沢良宜等の各地区が被害を受け、逆に左岸が切れるときは西河原から中城・鮎川・目垣などが被害を受けることになりました。

茨木市は、一度豪雨にあうとひんぱんとして河川が破堤して、濁流氾濫の災害を招いてきました。

また南部の摂津・河内の境界を流れる淀川本流もしばしば堤防が決壊して、その洪水時には茨木地域にまで氾濫しました。

明治初年からこれらの増水と堤防の決壊による主な被害について、安威川に関連するものだけを拾ってみますと、

- (1) 明治元年4月1日から4月15日まで1日も晴天がなく、大雨がやまず各地に洪水を起しましたが、ことに摂津・河内が甚しく多数の被災者が続出したので救出物資が放出されています。

この大雨で淀川が氾濫し、唐崎から三島江までの右岸堤防およそ340mが決壊しました。

とくに茨木地域では鮎川・目垣・島・沢良宜浜等が浸水被害を受けました。

- (2) 明治18年6月15日より大雨が降り続き、17日淀川および支流ともにみなぎり、安威川・芥川・茨木川等はいずれも河水があふれ出し、東海道以南は一面湖水となりました。
- (3) 明治29年8月30日風雨強く31日水量を増し、安威川筋では安威の右岸堤防50m、西河原の堤防50m、佐保川筋では安威山西東の堤防20m、

茨木川筋では春日・畑田東堤防 40 m、茨木堤防 90 m、玉櫛沢良宜堤防 50 m、を破壊し、人家や道路の破損は数えきれないほどでありました。

- (4) 明治 36 年 7 月 7 日から降雨があり諸川あふれ 9 日安威川筋、茨木川筋では堤防が切れ、また崩れ、道路や橋の破損流出したものが多くでました。
- (5) 昭和 7 年 7 月 8 日降雨に際して、茨木川が田中で 30 m にわたって堤防が決壊し、人家の浸水が甚しく、田畑の被害も数百町歩に及びました。

(6) 昭和 9 年 7 月風雨強く安威川筋では十日市・馬場・目垣・十一の堤防、茨木川筋では田中・沢良宜東・西の堤防が決壊して大きな被害を受けました。

- (7) 昭和 10 年 6 月 29 日風雨強く諸川は出水し、茨木川筋では中河原右岸、120 m、五日市右岸 60 m、沢良宜東、同西の兩岸 160 m が決壊し、安威川筋では十日市右岸 350 m、西河原および戸伏で左右兩岸各 60 m、二階堂上手で右岸 100 m が決壊し、付近一帯に氾濫して大きな被害を受けました。

それより 1 か月余りを経過した 8 月 10 日夜来より、またまた豪雨が安威川を襲い、護岸堤防の決壊が相続き、その被害は前回にもまして浸水家屋 5000 戸、流出ならびに半流出家屋 350 戸に及びました。

(8) 昭和 28 年 9 月 25 日台風 13 号、風と豪雨による被害で死傷者 7 名、全壊家屋 18 戸、半壊 63 戸、浸水家屋 1,683 戸に及びました。

- (9) 昭和 41 年 7 月 2 日集中豪雨(台風 4 号)で、家屋半壊 3 戸、浸水家屋 2,265 戸の被害を受けました。

(10) 昭和 42 年 7 月 9 日午前 10 時北摂一帯に雨足を強め、夜半までの総雨量は 260 mm に達し、特に午後 4 時から 10 時までの 6 時間雨量は 200 mm という集中豪雨となり、安威川筋では番田川付近及び宮鳥橋付近で堤防が決壊し、茨木川筋では中河原付近で堤防が決壊し、死傷者 10 名、家屋全壊 10 戸、半壊等 13 戸、浸水家屋 12,510 戸、橋の流出破損 10 カ所に達しました。

以上が洪水の主な歴史ですが、その都度、茨木市も警備、水防工事に努めてきま

したが、地域住民で組織されている水防組合での出動記録は、

昭和元年より昭和20年までの出動回数26回、出動人員1,466人、

昭和21年より昭和47年10月までの出動回数86回、出動人員3,625人
となっています。

今後とも、これらの洪水の歴史等を教訓にいたしまして、災害への対応に万全
を期す所存であります。